滋賀県平和祈念館

2026年度

前　期

平和教養講座

誰もが平和について考えるきっかけや考えを深める機会を提供する場として平和教養講座を行っています。原則として、毎月第三土曜日に多方面から講師をお招きし、様々な視点から平和について考えることができる内容や当館企画展示に関連する内容についてご講義いただきます。

開講日時		演　題	講　師
		内　容	
4月	18日（土） 13:30から	「瀬田国民学校絵日記」 ～子どもたちが描いた戦時下の暮らし～	企画展示関連講演 福庭　万里子　氏 （大津市歴史博物館　学芸員）
		「瀬田国民学校絵日記」は、昭和19年４月～昭和20年３月の１年間にわたって、瀬田国民学校五年智組の女子児童が学級日誌として描いた188日分の絵日記です。絵日記の内容を読み解きながら、子どもたちが記録した戦時下の学校生活とその背景についてお話します。	
5月	16日（土） 13:30から	従軍画家の描いた大陸前線 ～戦場・陣中・風景・風俗～	企画展示関連講演 劉　建輝　氏 （国際日本文化研究センター　教授）
		十五年戦争中、多くの画家が従軍して大陸前線に向かいました。彼らは戦場の様子だけでなく、中国各地の風景や風俗も数多く描きました。軍事郵便絵葉書として使用されたこれらの作品を紹介し、その果たした役割と意味について解説します。	
6月	20日（土） 13:30から	疎開児童たちの生活 ～大阪市立精華国民学校の疎開児童を中心に～	企画展示関連講演 田井中　洋介　氏 （当館　学芸員）
		戦局が悪化した昭和19年に、都会の子どもたちを農村部に疎開させる国策事業が始まりました。滋賀県では1万人以上の児童が疎開生活を送ることになりましたが、その様子について、成瀬國晴さんたちが在籍していた大阪市立精華国民学校の子どもたちを中心に紹介します。	
7月	18日（土） 13:30から	日記に見る学徒動員	秀村　研二　氏 （元明星大学教育学部　教授）
		1943年に学生に対する徴兵の猶予が解除されました。いわゆる学徒動員です。 その中で勉学の機会を奪われた学生がどのように戦争に向かっていったかを、ある大学生の日記を中心として考えてみます。	
9月	19日（土） 13:30から	「高麗人」とは？ ～その歴史と今～	朝倉　敏夫　氏 （当館　館長）
		「高麗人」とは、主に中央アジアに居住する朝鮮半島出身者の子孫たちです。では、なぜ彼らが中央アジアに居住することになったのでしょうか？彼らの歴史と現在について、昨年訪問したカザフスタンと韓国の光州市にある「高麗人文化館」を事例として紹介します。	

●参加方法 会場（当館2階研修室）へお越しください（事前申込不要）。

予約不要　**参加無料**

※定員：80人
※気象警報が発令された場合等、やむを得ず講座を中止する場合があります。

●問合せ先

〒527-0157 東近江市下中野町431

滋賀県平和祈念館　TEL:0749-46-0300

滋賀県平和祈念館ホームページ